

ISSN 0910 - 2396

野鳥たより

—北海道—

第 6 2 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和60年12月21日



ゴジュウカラ 84. 1. 9 共和町 撮影者 和田 淳



もくじ

私の探鳥地（長流川）	2	
札幌市月寒公園の野鳥	三浦和郎	3
野鳥との日々を	小野寺ハル	6
コウライウグイスを発見	太丸リツ	8
探鳥会報告（鶴川、鶴川、野幌）		9
鳥学コーナー		11
探鳥会案内		11
鳥民だより		12

私の探鳥地 ③

オサル
長流川 福岡 研也

石狩川のような大きな川に限らず、たとえ名もないような小川であっても、川岸を気ままに探鳥して歩くのは実に楽しい。砂丘に囲まれた川口、葦原の湿地帯を行く中流、切り立った岩肌に挟まれた上流。それぞれに表情があり、それなりに面白さが異って見あきることがない。

春夏の囀りのころもいいが、私はどちらかといえば真冬の川が好きである。ひょっとしてコミミズクやオオモズなどの珍客に逢えるかもしれないし、ベニヒワの何百もの群れに出会うかもしれない。私にとって冬は、心ワクワクの季節なのである。

伊達市の西側を流れる長流川は、市街地から1キロほどにあって、川幅約30メートル。大滝村の谷間に源を発し、田園地帯を横切って噴火湾に注ぐそれほど大きくない河川であるが、街近くの川としては、味気ないコンクリート製の堤防も殆どなく、比較的自然な環境を残してくれている。第一、日曜日の昼さかりでも、全くといっていいくらい人影はない。たまに釣り人が通るだけであり、環境も良く人もいないから、当然野鳥が多い。

上流にあった鉱山の廃液のせいで、その昔は黄色く濁った川として、つとに有名であったが、廃鉱となって20年以上もたった現在では、うれしいことに水も澄んで、再び自然が甦っている。せっかちで無精な私にとって、川岸の近くまで車で行けるというのは何よりありがたい。少し風が強く寒気がこたえる日なんか、車中探鳥を決め込む。

内湾に面した当地方は、雪が少く、真冬でも実をつけた草木が覆れてしまうことはない。時折、カシラダカ・アトリ・ミヤマホオジロなどの群れが長逗留して楽しませてくれる。春夏の長流川もまた捨て難い。十数年前に猟友会が放

鳥したヤマドリの何代目かが、近くの南黄金というところで落鳥で見つかり繁殖が確認された。そのくらい温暖な地方であるから、本来道内には稀れなはずのダイサギ、チュウサギ、コサギ、アマサギ、ゴイサギ、ササゴイなどのサギ類も珍しくなく、最近では、6・7月ころになると毎年見かけるようになってきた。コヨシキリ、オオジュリン、エゾセンニュウ、ホオアカ、ベニマンコ、ハギマンコ、カワセミ、ヤマセミ、クイナ、バン、イソヒヨドリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオタカ、ハイタカ、チュウヒ、コウライキジ、カッコウ、ホトトギス、ソリハシギ、キアヒシギ、オオジシギ、オソドリ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、カワガラスなど、季節さえ合えば、彼等に逢える可能性大である。

不思議なことに、少し南の長万部・八雲地方では繁殖もしているシマアオジが、ここでは見られない。灌木のまばらに生えたブッシュ地帯と散在するのだが原因はわからない。私の最も好きな野鳥だけに、何が不服なのか聞いてみたいものだが、ともあれ私にとって唯一の不満ではある。

長流川：国鉄伊達駅から約2キロ、道南バス「北海道製糖前」下車 300メートル。川岸の駐車場から河口までの約1キロが探鳥コース。葦原と泥質の川原を歩くので長靴は必携。時間があれば、国道36号線以北の中流も面白い。

札幌市月寒公園の野鳥

三浦 和郎

はじめに

月寒公園での観察は、野鳥の識別練習を目的に始めたものだが、継続していくうちにある程度のデータが集ったので報告することにした。本公園は人間の利用密度が高く、典型的な都市公園として位置づけられる。探鳥会が盛んに行われ、多くの野鳥が生息している西岡公園、円山公園とは比較できないが、市街地の公園における野鳥の生息状況を示す一例になるものと思われる。

なお、本報告をまとめるにあたり御指導いただいた帯広畜産大学藤巻裕蔵助教授に感謝申し上げます。

月寒公園の歴史、位置及び環境

月寒公園の歴史をたどると、1910年（明治43年）に月寒連隊から下付された土地を公園として設定したことに始まり、本格的な造成工事は1958年（昭和33年）より開始された。その後、各種施設が整備され現在に至っている。

豊平区美園10～12条、月寒西2～3条に位置し、国道36号、道道札幌環状線に近接している（図-1）面積22.2ha、野球場、ポート池、プール、冒険広場、運動広場を備えた総合公園である。公園の東側は樹高15～25mのカシワ、ニセアカシア、カエデ類などが生育するほか、エゾマツ、イチイなどの針葉樹もみられる。一方、西側は樹高5～8mのシラカンバ、サクラ、ナナカマド、プラタナスなどが植栽された比較的明るい林である。全体的に踏圧がかなり高く、下草はほとんどないが、急斜面などの人の立ち入れない部分にわずかにササ地がみられる。

観察期間と記録方法

1980～1983年の4年間に209回の観察を行った（表-1）。1980年、81年は4～7月の繁殖期に観察が集中したが、82、83年は非繁殖期にも行い、4年間でほぼ周年の記録が得られたものと思われる。

観察は、公園内の樹林部を通る約1kmコースを設定し、ラインセンス法により種類と個体数を記録した。

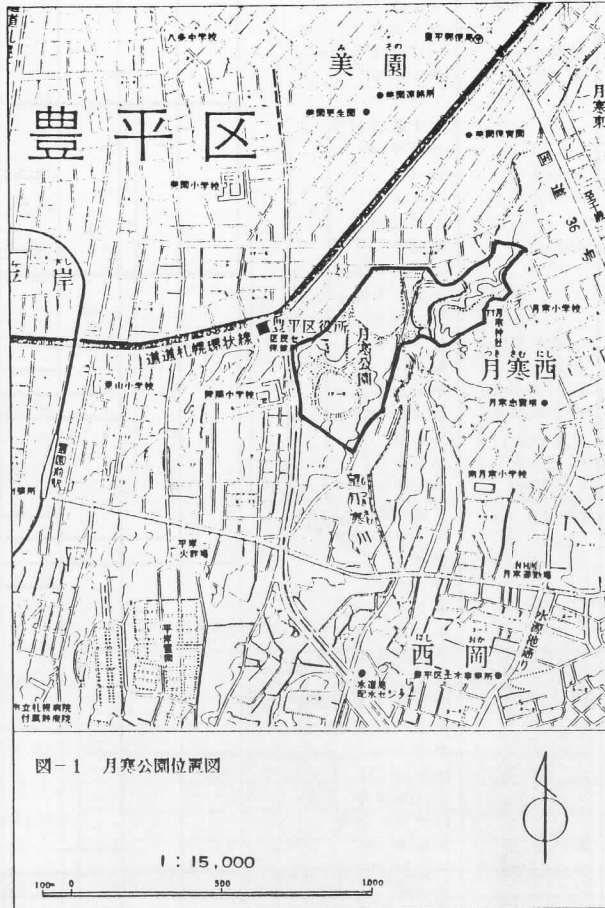


図-1 月寒公園位置図

表-1 観察回数

年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
1980					8	5	5	2				2	22
1981				8	13	4	7						32
1982		1	12	12	12	7	8	8	6	7	4		77
1983	7	6	9	10	8	6	7	7	5	4	5	4	78
計	7	7	21	30	41	22	27	17	11	11	11	4	209

観察結果

209回の観察で25科67種が確認され、出現状況は表-2のとおりである。

表-2 月寒公園鳥類リスト

(1980・5～1983・12)

科	種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ワシタカ	トビ												
	オオタカ												
キジ	ハイタカ												
	キジ												
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ												
ハト	キジバト												
ホトトギス	アオバト												
	ジュウイチ												
アマツバメ	カッコウ												
	ハリオアマツバメ												
キツツキ	ヤマゲラ												
	アカゲラ												
ヒバリ	オオアカゲラ												
	コゲラ												
ツバメ	ヒバリ												
	ツバメ												
セキレイ	イワツバメ												
	キセキレイ												
ヒヨドリ	ハクセキレイ												
	セグロセキレイ												
モズ	ビンズイ												
	ヒヨドリ												
レンジャク	モズ												
	キレンジャク												
ミソサザイ	ミソサザイ												
	コルリ												
ヒタキ	マミジロ												
	クロツグミ												
エナガ	アカハラ												
	マミチャジナイ												
シジュウカラ	ツグミ												
	ヤブサメ												
ゴジュウカラ	ウグイス												
	エゾセンニュウ												
キバシリ	メボソムシクイ												
	エゾムシクイ												
メジロ	センダイムシクイ												
	キクイタダキ												
ホオジロ	キビタキ												
	オオルリ												
アトリ	サメビタキ												
	コサメビタキ												
ハタオリドリ	エナガ												
	ハジブトガラ												
アトリ	ヒガラ												
	ヤマガラ												
アトリ	シジュウカラ												
	ゴジュウカラ												
アトリ	キバシリ												
	メジロ												
アトリ	カシラダカ												
	アオジ												
アトリ	アトリ												
	カワラヒワ												
アトリ	マヒワ												
	ベニマンコ												
アトリ	ウソ												
	イカル												
アトリ	シメ												
	ニューナイスズメ												
アトリ	スズメ												

科	種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ムクドリ	コムクドリ												
カラス	ムクドリ												
	カケス												
ハト	ハシボソガラス												
	ハシブトガラス												
	ドバト												

札幌市内各地ではこれまでに、羊ヶ丘で96種（四十万谷 1977）、円山周辺で98種（羽田 1977）、真駒内保健保安林周辺で86種（新妻 1979）などの記録があり、これらと比較して月寒公園における種類数は少ない。その理由として、これらの報告は調査範囲が広いこと、生息環境が多様であることなどがあげられる。これに対し、今回の結果は市街地に囲まれた地域の鳥相を示すものといえる。

主要な種となっているのは、ハクセキレイ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバトなどの市街地に多くみられる種のほかに、キジバト、アカゲラ、ツグミ、キビタキ、ハシブトガラ、ヤマガラ、シメなどの森林性の種であり、草原性の種は非常に少ない。草原性の種としてはヒバリ、ウグイス、ベニマシコなどが確認されたが、いずれも数回の記録である。また、これまでに繁殖の確認された種は、アカゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ヤマガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの11種である。

次に、月別の出現種数について示すと図-2のとおりである。夏鳥の飛来し始める3月、4月に増加がみられるが、この時期キレンジャク、ミソサザイ、カシラダカ、アトリなどの冬鳥、漂鳥が一時的に出現する。種類数が最も多くなるのは5月で、この時期にはほとんどすべての夏鳥が出そろふ。なお、ここで1982年の夏鳥の飛来状況を表-3に示した。ヒタキ類ではアカハラが最も早く4月下旬に飛来し、続いてエゾムシクイ、センダイムシクイ、オオルリが5月上旬、キビタキが5月中旬、コサメビタキ、メボソムシクイが5月下旬の順に飛来する。種類数は6月以降減少し、ツグミ、カシラダカなどの出現する10月にやや増加するが、厳冬の12月に最低となる。

以上、4年間の観察結果から鳥類の生息状況をみてきたが、この間にも数の増えた種、姿をみせなくなった種などの変化がみられる。この原因が何なのか。また一時的な減少なのかを確かめる上でも観察を続けていきたいと考える。

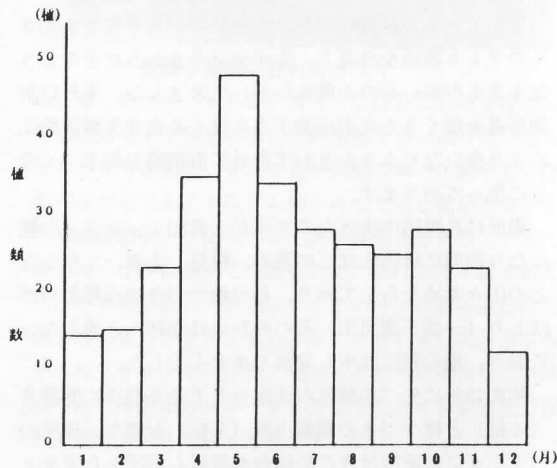


図-2 月別出現種

表-3 夏鳥の飛来状況

種	3月			4月					5月				
	15	22	7	9	18	21	23	27	5	8	15	21	28
ハクセキレイ	○												
キジバト		○											
カワラヒワ		○											
ムクドリ			○										
キセキレイ				○									
アオジ					○								
ベニマシコ						○							
モズ							○						
アカハラ							○						
コムクドリ								○					
エゾムシクイ									○				
センダイムシクイ									○				
イカル										○			
ツバメ											○		
ビンズイ												○	
オオルリ													○
キビタキ													○
カッコウ													○
コサメビタキ													○
メボソムシクイ													○

063札幌市西区八軒1条西1丁目3-1



野鳥との日々を

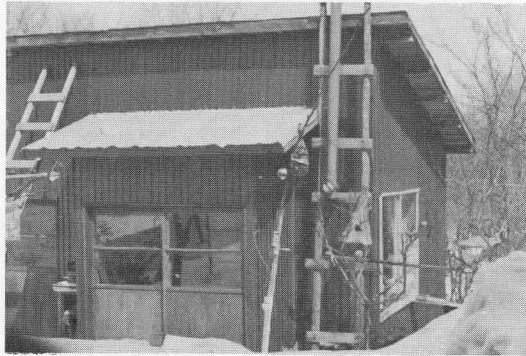
小野寺 ハル

美しい海や山川があり恵まれた自然の中に育ちながらウグイスの鳴き声ぐらいは覚えておりましたが野鳥はカラスとスズメ、それにゴメしか知りませんでした。

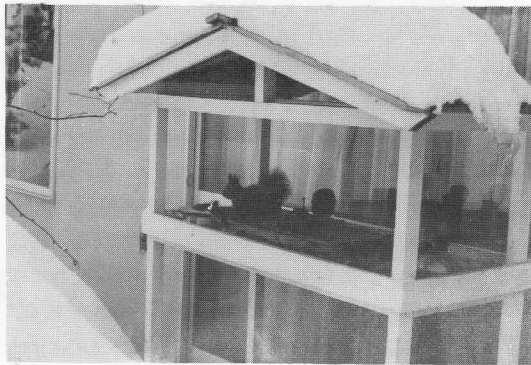
しかしある日野鳥に餌付けをされている平井さち子さんのテレビ放映を拝見し、先ず自分のまわりにどのような生きものがいるのか興味がわいてきました。それ以来御指導を頂くうちに羽田恭子さんはじめ良き先輩諸氏にめぐり会いなりふりかまわず併せて御指導を仰ぎつゝ今日に至っております。

場所は札幌市中央区なのですが大倉山ジャンツェの麓になり周囲には円山はじめ藻岩、幌見、大倉、三角山などの山々をめぐらしており、且つ地つづきには琴似川がはしり（一部不凍河川）その向かいは森林へと連らなっており、地の利には申し分ありませんでした。

昭和49年に先づ地続きの溪流を見下せる場所に物置き（4帖）と棟つづきの観察小屋（7帖）を建て、母屋のベランダには屋根付きの給餌台を設置し居間から家族ともども野鳥を身近かに親しめるように致しました。やがて貴重なアオシギとの出会いもあり胸躍らせて観察をつづけました。



観察小屋



屋根付給餌台



アオシギ

自宅周辺で見れた野鳥（49年2月以降）

○印はえさ台及び撒き餌に来たもの（カラスを除き35種）

ア行 ○アオジ、アオシギ、アオバト、○アトリ、アカウソ、アカショウビン、○アカハラ、アカモズ、アリスイ、イカル、イソシギ、イワツバメ、ウソ、ウグイス、エゾライチョウ、エゾムシクイ、○アカゲラ、○オオアカゲラ、オオルリ、オオタカ、オオマシコ

カ行 ○カシラダカ、カッコウ、カワガラス、カワセミ、

○カワラヒワ、○カヤグリ、キクイタダキ、○キジバト、キセキレイ、キビタキ、○キレンジャク、○クロジ、クロツグミ、クマゲラ、○（コウライ）キジ、○コゲラ、○ゴジュウカラ、○コムドリ、コマドリ、コルリ、コサメビタキ、コアカゲラ※
 サ行 ○シジュウカラ、シマエナガ、シロハラ、○シメ、ジュウイチ、シロハヤブサ、○ジョウビタキ、○スズメ、セグロセキレイ、センダイムシクイ
 タ行 ○ツグミ、ツツドリ、ツバメ、ツミ、トビ、トラツグミ、○ツメナガホオジロ※
 ナ行 ニュウナイスズメ、○ノスリ
 ハ行 ハイタカ、○ハギマシコ、ハクセキレイ、○ハシブトガラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、○ハチジョウツグミ、ハチクマ、ハヤブサ、ハリオアマツバメ、○ヒガラ、○ヒヨドリ、○ヒレンジャク、ビンズイ、フクロウ、ベニマシコ、ベニヒワ、ホオジロ

マ行 マキノセンニュウ、○マミチャジナイ、マヒワ、
マガモ、マミジロ、○ミヤマホオジロ、○ミヤマカ
ケス、ミサゴ、ミソサザイ、○ムクドリ、○メジロ、
メボソムシクイ、ムギマキ、モズ

ヤ行 ○ヤマガラ、○ヤマゲラ、ヤマシギ、ヤブサメ、
ヨタカ

ラ行 ルリビタキ

※ツメナガホオジロ（冬羽）とコアカゲラは1度限りの
出会いでした。

傷病鳥及びはぐれ鳥との出会い

家のまわりに巣箱や給餌台を設置するようになってからわが家だけでなく近所の方々からも傷病鳥が届けられるようになりました。

野鳥とは静かに観るものでまさか直接接触して見る事になろうとは全く考えてもみませんでした。しかしぐったりしている姿を目の前にすると家族の者がそれぞれに協力を惜しみませんでしたから本当に助かりました。

私の場合は先づ最初の手当として寒い時には両手に入れて人間の体温でゆっくり温め、暑い時にはぬれタオルを手に広げて包むように冷してやります。目があいたら傷の手当てをして鳥カゴに移して餌を与えます。

餌の食べ具合に依り長びきそうな時には市自然保護課に連絡をして許可を受けます。

◇ヒレンジャク◇

雪の中に落ちていたとバスタオルに包まれて届けられたヒレンジャクに手当を終え好物のりんごを与えたのですが、口ばしを傷めたらしくいっこうに食べる気配がありません。そこでりんごやミカンを切ってみましたがかやっぱ駄目でした。とうとう最後にバナナの皮をむいてあげますと、少しづつついばんでくれほっと致しました。だんだんと目を追うごとにむさぼり食べるようになりりんごには目もくれません。ところがバナナだけ与えておりましたら軟便となりましたのでりんごと共に量を決めて与えましたらすっかり元気になり、やがて二週間ほどで放鳥出来ました。

◇ジョウビタキ◇

庭のツルウメモドキの紅い実がすっかり食べ尽くされた頃室内で生け花に使用していたものを給餌台に置きました。ところがある朝雀とばかり思っ見ておりました中に飛ぶ時オレンジ色が羽の間に見えかくれするのが目に止りました。胸のときめきを抑えて調べると初めて見るジョウビタキのメスと判明。給餌台にツルウメモドキの実をついばみに飛来していたのです。それから一日数回訪れてくれるのですが、此の実実はヒヨドリも好物でまたたく間に食べ尽くしてしまいました。

それでも渡って行こうともせず、餌台に止ってはボンとして見ると寒空に可愛いそうで何とかそれ



観察小屋前に訪れたノスリ

らしきものは無いものかと考え、こぼれている実を拾って口にふくんで味をみましたが複雑でさっぱり思い当たるものはありません。そこで鳥が採餌の時の生態を思い浮かべながらりんごをみじん切りにして味と軟かさを出すために砂糖を少々加えさっと煮て与えましたら、一度に飛びつくように食べてくれました。口ばしで一粒くわえて、やや間を置いてからコクリといっきに飲み込むので固くても軟らかすぎてもいけないと思いました。ところがこれもヒヨドリの好物、従ってそれから毎朝私の生活はりんご刻みからスタートするようになり春を迎えて自然採餌をするまで数ヶ月続きました。

◇メジロ◇

吹雪が続いたある夜、除雪に出た息子が慌しくかけ込んで戻って来ましたがその掌の中にはしっかりと一羽のメジロが入っていたのでした。とっさに「一羽だけなの」と言う私の問いに「もう一つ持って来ようか」との返事。再び戻った時にはもう一羽も……

メジロは何時も二羽で行動を共にしておりますので、渡りの群れにはぐれたのが一緒にここまで辿りついたのでしょうか。



ベランダ前の餌台に来たジョウビタキ(♀)

居間のカーテン越しの淡い光の中に屋根付きの餌台を発見してとび込んだのですが、飢えと寒さで体温が下降したのかそのまま足が凍てついていたと言うのです。かすかな消えるような細いなき声を発しながら……

冬晴れの時は戸外で日光浴をさせたり、ミカンの餌で元気になるやがて仲間が渡ってくる花の季節大空に向けて放してあげました。

メジロ放つ 行く手ほころぶ 山ざくら

◇ムシクイ◇

木の葉も散り尽くして、仕度に迫れる頃1羽のムシクイを二階ベランダにて保護致しました。居間のソファの上にポツンと置かれたまま動く気配もありません。そのうちに時が経つにつれヨタヨタと少しづつ歩を進めるようになりましたが羽を傷めたのでしょうか全く飛ばうとしません。私は虫が大嫌いなのですが、早速鳥の堆肥を掘ってミミズを探してあげましたら食べてくれ、蚊に似た飛ぶ虫はそのまま残してありました。

そのうちに市販されている小虫を求めましたが実に食欲旺盛で横にねり餌も置きましたが、申し訳程度につくだけで。

冬のあし音が近づくにつれ早く飛べるようにと人間の方にあせりが出て来て試みに鳥籠より出してみたのですが、飛びもせずうらめしそうにじっとカゴの方を見ておりました。そのうちにゆっくりと歩き出しやがて自分？から再びカゴの中にスタスタと入っていき見守る私達を呆然とさせました。やがて少しづつ飛べるようになり家族が在宅の日曜を放鳥日と決めました。ところが幸か不幸か其の日は主人が関西方面への旅行出発日と重なっている事に前夜気が付いたのです。



元気な頃のメジロ

私たちは季節的にも途中の海峡が一番心配でしたのでムシクイの同伴を主人に話しましたが快い返事が返って来ません。でも今まで世話をしてくれた嫁と共に当日の朝ムシクイの荷造りをして玄関を出てゆく主人の手にとろうと下げて頂き一路南国をめざしたのでした。大阪空港を出て郊外の田園風景の中で放鳥してくれたようですが、今まで全く地鳴きもしなかったのに其の時にはジュッーと言ふ一声を残し近くの藪中に元気な姿を消したと言う事でした。小半日の道中に備え、練餌、多めの小虫、水を含ませた脱脂綿、それに止り木等を添えましたが、好物の小虫は一匹残らず食べ尽くされて居たという事です。昨年10月終りの事でした。

ムシクイと 旅つれだちて 柿の里

〒060 札幌市中央区宮ノ森1の16-6-33

コウライウゲイスを発見

9月8日、朝9時頃裏庭に面した二重窓の内窓を開けた時、カワラヒワに似た黄色い鳥がまゆみの木からバタバタと南隣の家の裏に飛び去ったと夫からききました。

数日後、窓を開放して家の窓から3m離れた所で撮った写真が出来てみると鮮やかな黄色、赤い嘴、翼から尾の黒〔北海道の鳥〕に思い当たらず〔原色野鳥図鑑〕からコウライウゲイスに似ていると思ったのですが、なき声書かれていず、勤務先の方の御主人が野鳥に詳しいことを思い出して写真ときき慣れないなき声ヒーヨ、ヒーヨ、きれいな高い声と警戒音らしいギャー、ギャーの様ななき声と書き添えてみていただいたと



コウライウゲイス

ころ、折り返し大きな図鑑と間違いなくコウライウゲイスであるとの返事がありましたのでお知らせいたします。

太丸 リツ

場所 札幌市東区北27条東5丁目
 自宅の小さな裏庭のまゆみの木
 期間 9月8日～9月20日
 家では一羽しか確認できませんでしたがお向い
 の方は黄色い鳥が二羽で飛んでいたと話されま
 した。
 採餌 まゆみの木の実
 採餌中はなき声がきかれず、エゾヒヨドリも共
 にまゆみの木の実をたべていましたが鳥はみら

れなかった。
 エゾヒヨドリは騒々しくなきながらたべていま
 した。
 撮影データー アサヒペンタックスM
 200mm望遠 絞り8露出Auto
 フィルム コダカラーR ASA400
 私は一度も姿をみる事が出来ず時々朝5時～6時頃
 なき声をきいただけでした。
 札幌市東区北27条東5丁目



鷓川 60.8.25 竹内 強

鳥のことは何も知ら
 ない私がいつの間にこ
 んなに鳥に夢中になっ
 てしまったんだろう。

こんな話があります。今年の5月のある日、私は友人
 二人といっしょにウトナイのネイチャーセンターへ、そ
 こでの会話

私：オイ、あの黄色っぽい鳥、スズメとは違うだろう。

友：エッ、あれスズメじゃないの！

ネイチャーセンターの心優しいお姉さん：ええ、あれ
 はアオジといてももちろん、スズメじゃないですよ。

心優しいお姉さんは、こんな私達をさげすんで見るこ
 ともなく、微笑んでいました。(恥をかかずにすんだ?)

しかし、こんなことでくじける私ではなく、仕事場の
 同僚であり、今では偉大なる先輩、師とも考えている戸
 津先生(誰のことだろう)の足として、マイカーを駆使
 し、日夜、鳥を追いかけています。(戸津先生に誘われて気
 が付いたら双眼鏡を借金して買い込み、あれよ、あれよ
 という間に、愛護会に入会して、10月には朝4時半札幌
 出発で室蘭へという計画に参加する予定。あーあ、あー
 あ、ハードな毎日)

8月25日の鷓川での探鳥会も前述の戸津先生の奥さん
 のおいしいお昼につられて、運転手をかって出て7時、
 札幌出発(帰りはウトナイ湖、白鳥湖を回って帰札)

でも、鳥オンチの私にとって初めて見るシギ、チドリの
 類は、区別がつくどころか、どこが違っているんだと
 いう有様。心優しき会の人達はこんな私にも優しく声を
 掛け、フィールド・スコープで見つけたナントカシギや
 ナントカチドリを教えてください。(でも、どこが違う

のかも解らないのです。せっかく教えて下さったのに、
 本当に情けない後輩で申し訳ありません。)

そんな私でもアジサシだけは解りました。(というよ
 りも、6、7年前NHKで放送していた「未来少年コナ
 ン」というアニメーションの中で、主人公の二人、コナ
 ンとウナの心を継ぐという重要な役割でアジサシが使わ
 れており、そのアジサシ～テッキィという名前」を一目
 見たいと思って、何度も図鑑を広げ、ガイドを眺めてい
 たので) 想像していたようにその飛形も素敵であり、
 私もアニメーションの中のコナンのように、「テッキィ、
 ウナに僕の心を伝えてくれ！」と心の中で叫んでいた。

諸先輩のお話しでは、暑さのためか、シギ・チドリの
 類の種類・数ともに今回は少なかったということです。
 私個人とすれば、アジサシ一羽で満足なのですが、やは
 りベテランとなるとそのようなわけにはいかないのだ
 しょう。この次は、と次回に期待して、この度の探鳥会
 は終わりました。

〔記録された鳥〕 アオサギ、マガモ、トビ、チュウヒ、
 コチドリ、ムナグロ、ヒバリシギ、アオアシシギ、タカ
 ブシギ、イソシギ、ツバメチドリ、ウミネコ、アジサシ、
 キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、
 オオジュリン、スズメ、ハシボソガラス、以上20種

〔参加者〕 高田雅之・早苗、玉山武、井上公雄、戸津
 高保・以知子、佐々木武巳、浪田良三、羽田恭子、道川
 弘・富美子、福岡正樹、武沢和義・佐知子、柳沢信雄・
 千代子、堀内 進、渡辺紀久雄、竹内 強、森岡、川村、
 吉田 以上23名

〔担当幹事〕 堀内 進、渡辺紀久雄

〒062 札幌市豊平区豊平8条13丁目1-1 辻沢方

鷓川

60.9.15 白倉 美智子

良い思い出は、いつまでも 我々に 喜びを与えてく
 れる。繰り返す甦える感動は頭の中のスクリーンではい
 つも新鮮だ。

鷓川での探鳥会も私にとって、忘れられない日のひと
 つになりそうだ。

天候にも恵まれ、その日は快晴。気持ち良く柔らかな

土を踏みしめながら、はじめて行く鶴川牧場への道。心は踊る。久しぶりの弾む心のドキドキ。

広々とした牧場には、放されたたくさんの牛や馬。それを囲む山や海。こんなにも多くの自然が一カ所に集まっている。「これはすばらしいや!」と、1人自然に酔っているうちに、鳥達も我々にそろそろ御挨拶ははじめて来たようだ。

皆さんのプロミナーをお借りして覗き込む。「あれが○○シギ?○○チドリ?」それにしても、シギ、チドリの判別の難しさ。もう少し大きく見られればと思っているうちに、オオソリハシギのレンズいっぱいのだアップ。すごい興奮!!キラキラと光る水面に羽根の模様もはっきりと美しく、私のオオソリハシギが、そこに立っていた。風にそよぐ羽毛の優しさに暖かさを感じた。

この1羽を見られただけでも、今日は大満足だ。

そのうえ、40種類も見られて、鳥をボツリ、ボツリと見出してから、最良の日だったかも知れない。

牧場でのお昼ごはんのおいしかったこと。格別でした。(せめてチドリくらいの目の大きさがあつたら、もっと

良くみられたかも……。)

〔記録された鳥〕 アオサギ、コガモ、オナガガモ、トビ、オオタカ、チュウヒ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ムナグロ、ダイセン、トウネン、オジロトウネン、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、エリマキシギ、キリアイ、ツルシギ、アオアシシギ、ソリハシギ、オグロシギ、オオソリハシギ、タンギ、ユリカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、アジサシ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ノビタキ、ホオアカ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス 以上40種

〔参加者〕 石谷義一、井上公雄、岩泉ゆう子、倉持允昭・豊子、佐々木武巳、澤山好美、清水朋子、白倉美智子、曾根モト、園部恭一、大坊幸七、田中礼子、玉山武、富川 徹、萩 千賀、長谷川涼子、羽田恭子、福岡研也、房川比呂志、堀内 進、前川弘・富美子、柳沢信雄・千代子、山田甚一・れい子

〔担当幹事〕 富川 徹、堀内 進

野幌森林公園

60.10.27

松館 弘昌

朝、目が覚めると、雨がふっていて寒かった。アラレもふってきたが、天気予報では、昼晴れると言うので、お父さんと、出かけることにしました。あつまる時間がおくれたので、一部見れなかった。また、ぼくは、本で鳥のことを勉強しているが、本当のさえずり、地鳴き、色彩をおしえてもらった。この日見た鳥は、楽しそうに高い空をとび、えものをねらうトビ、冬じたくのために、ホオの実をついばむアカゲラ、ビーヨ、ビーヨとか、ピーッ、ピーッ、ピーヨと鳴くヒヨドリ、大きな群れでいるムクドリ、他の鳥の鳴きまねをするミヤマカケス、カラの仲間とそれにまじるキクイタダキ、あたまを下にむけてみきをおりながら虫をさがすゴジュウカラなど。今言った鳥の中でゴジュウカラ、ヒヨドリの他は見たことのないぼくにとって、楽しかった。さいごに、愛護会の方に、お世話になりました。ありがとうございました。また参加させて下さい。

〔記録された鳥〕 アオサギ、トビ、ハイタカ、ツミ、ノスリ、キジバト、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ルリビタキ、マミチャジナイ、ツグミ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバ



ミヤスカケス (P. L白沢昌彦)

シリ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、ウソ、イカル、シメ、ムクドリ、カケス、ハシブトガラス、カモメSP 以上34種

〔参加者〕 井上公雄、羽田恭子、長谷川涼子、榊井芳子、松館光雄・弘昌、村田武仁・茂治、野口正男、福岡研也、佐々木武巳、泉屋宜志・恵津子、竹内 強、香川 稔、戸津高保・以知子、道川 弘・富美子 以上19名

〔担当幹事〕 長谷川涼子、道川富美子

札幌市白石区平和通4丁目北2番1 エスカイア 308号

鳥学コーナー

問 冬期の野鳥観察の服装について教えてください。

答 冬の野鳥観察の対象は、留鳥、漂鳥、冬鳥となり夏と違い種類数はそれほど多いものではありません。

しかし、冬の寒さの中で野鳥が餌を取ったりして、いる姿を見るのもまた面白いものです。

冬期と言っても積雪の少ない時期、積雪厳冬期、春間近かな時期といろいろありますが、ご承知のとおり野鳥観察は、時速約2Km程度とゆっくりとしており汗が出る程歩きませんので防寒が何と言っても大切です。

積雪期前の11月12月は、みぞれなどに会うこともありますので防水性の高い上下、帽子つきのものが特に良いと思います。ビニール製の雨具は、気温の低下と共に硬くなって動きにくくなり破れ易くなりますので良くありません。手袋は、濡れることを前提に替えも用意し、帽子は防水性、保温性の高いものを、また、メモ帳や本等は濡れないようビニール袋に入れ、双眼鏡の接眼部は接眼キャップ2ヶをヒモで結び落さないよう本体あるいは首につけておくとよいと思います。

厳冬期の服装ですが、風が冷たいので風を通しにくい保温性の高いオーバースボンやジャッケが必要で、中には毛糸のセーターを着込み、お腹まわりは無防

備となり易いのでズボンの中に深く入る下着や衣類をつけ、首まわりには首まきやスカーフを、そして帽子は耳を覆うことのできるものが良いでしょう。足の方は、靴下を薄手と厚手のものをはき、長ぐつは、内部に空気層を持った防寒タイプのもので足に密着するより少し遊びがあるくらいの方が暖かいです。手袋は、メモを取るために薄手のものに風を通しにくい大きめの手袋の2枚ばきが良いと思います。歩いていて汗をかくようであれば、早めに衣類を脱ぐなどして調整し、寒いときは、予備の衣類を身体が冷え切らないうちに着ることで、身体を動かさないうちでじっと長い間観察する場合は、ベンジンカイロや背負いの小型アンカが重宝します。

春先の服装は、積雪期前に準じますが、雪は暖かさとともに水分を多量に含みますので、オーバースボンは防水性の高いものを、靴には雪が入らないよう足首のところなどには、スパッツをつけるとう良いでしょう。

また、天気次第ではかなり暖かかったり寒かったりしますので適宜脱いだり着たりして汗をかかないよう衣類の調整が必要です。また、昼食時に腰を掛けるときなどは、小型のザブトンに厚手のビニールを巻くとか柔軟性のある空気層を持ったボード状のものを用意すると濡れることなくゆっくり座って食事がとれるものです。



〔野幌森林公園スキー探鳥会〕

昭和61年2月16日(日)

一年中で一番厳しいこの季節に、鳥達はどのように暮しているのでしょうか。吹雪くか晴れるかは、私達の力ではどうにもなりません、音まで違う雪世

界に鳥達の声・姿を求めての探鳥会です。歩くスキーがあれば最適ですが、深めの長靴でもだいじょうぶです。

午前9時 国鉄函館本線大森駅待合室集合

〔円山公園〕

昭和61年3月2日(日)

管理事務所の庭では給餌がされており、なかなか近くでみれない鳥達の表情まで見て取れます。以外な発見があるかもしれません。カラヤキツツキの類、ツグミ、アトリ、レンジャクなどがみられるでしょう。地

下鉄で簡単に行けますし、午前中で解散します。気軽にいらして下さい。

午前10時 円山公園管理事務所前集合

〔ウトナイ湖〕

昭和61年3月30日(日)

ウトナイ湖には、北帰途中の鳥達が降りたっています。マガン・ヒシクイの群れが氷の上で休み、ハクチョウが羽音をたてて飛んでいます。淡水ガモ達はあちこちでお尻を垂直にたてていたり、姿を消していたアイサや海ガモ達が、バツと望遠鏡の真中に浮かび上がったりで、なかなか忙しそうです。オオワン・オジロワンもみられるでしょう。

暖かい服装でお出かけ下さい。

午前10時 ウトナイレイクホテル湖畔側集合

〔野幌森林公園〕

昭和61年4月20日(日)・27日(日)

北海道の春が始っています。南の方からは、ここを
住み家にする鳥達や、ちょっと休んでもっと先へと進
む鳥達がやってきて、野幌の森もにぎやかになってき
ています。木々は芽吹いたばかりで鳥の姿が見やすく、
探鳥にはもってこいの季節です。アオジ、ミソサザイ、
クロツグミなどがみられるでしょう。

午前9時30分 大沢駐車場入り口 または午前8時
30分百年記念塔前集合

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

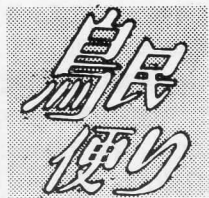
昭和61年4月13日(日)

午前9時30分大沢駐車場入り口、または午前8時30
分百年記念塔前集合

いずれの探鳥会も暴風雨・暴風雪でないかぎり行い
ます。昼食(円山公園探鳥は除く)・筆記用具・観察
用具をご用意下さい。

探鳥会についてのお問い合わせは、

道川011-712-3410まで。



◆定例幹事会報告

60年10月9日(水) 18時

30分~20時

札幌市民会館会議室 出席

幹事10名

[審議内容]

1. 野鳥だよりの余部(毎号約100部)については、
会員外の探鳥会参加者に配布する。
なお、事務局が手狭なため、バックナンバーに
ついては会員の有志宅にて保管することとした。
2. 新年懇談会の日程、実施内容、講演者について協
議した。
3. 来年の写真展をバードウィーク前の週に札幌地下
街の「ふれあい広場」で実施し、さらにバードウィ
ーク期間中に例年どおり銀行ロビーで実施すること
とした。
4. 会員が亡くなられた場合は、野鳥だよりに計報を
のせることとした。

◆定例幹事会報告

60年11月6日(水) 18時30分~20時30分

札幌市民会館会議室 出席幹事6名

[審議内容]

1. 10月29日開催された役員会での検討内容の報告が
あった。
2. 新年懇談会の講師依頼、準備内容について検討し
た。
3. 61年度、総会開催期日について検討した。

◆新年懇談会の開催について

恒例の新年懇談会を次により開催しますので、皆様
多数の参加をお待ちしております。今回は「道新」の
魚眼図でおなじみの、帯広畜産大学の藤巻裕蔵助教授
を講師にお招きし、「北海道の野鳥」について、お話を
していただくことになっておりますので、ふるってご
参加ください。

なお、参加費は500円です。(当日受付)

日 時 昭和61年1月18日(土) 午後2時~

場 所 北海道婦人文化会館(札幌市中央区北1
条西7丁目)

◆61年度写真展のお知らせ

例年どおり写真展を開催しますから、振るってご応
募下さい。なお、従来は三菱信託銀行のフロアーのみ
の展示でありましたが、今回は広く多くの人に展示し
たいということで、札幌地下街にある市の展示場の
「ふれあい広場」にも展示することになりました。

<応募要領>

◎ テーマ 野鳥とします。

◎ サイズ 四ツ切以上

◎ メ切り 4月17日まで

◎ 送付先 野鳥愛護会事務局

※ 撮影のデータ(場所・年月日・鳥名)を記入し
てください。

◎ 展示期間と場所

・ ふれあい広場 4/23~5/7

・ 三菱信託銀行 5/10~5/23

◎ 展示後 額縁つきで返送します。

◆P・Lとは

フォトライブラリの略のことでPhoto(写真) Lib
rary(図書館、蔵書)すなわち写真図書館とでも訳す
とよいでしょうか。

P・Lには何人かの方に、写真やイラストをいただ
いており、61号でも既にこれらを使用しておりますが、
62号から使用させていただいた方の名前を表示するこ
といたしました。それを表わすのにP・Lと略し、
その後写真提供者の名前をいれております。本号の
10ページに記載している形で本号以降も表示していく
予定です。

青木二郎氏

当会会員の青木二郎さんが9月2日にお亡くな
りになりました。青木さんは56年に入会されて
以来、野幌森林公園をはじめ各地の探鳥会に参加
して下さいました。つつしんでご冥福をお祈り申
しあげます。